

新潟脳神経研究会第 303 回例会

日時：平成26年12月2日（火）午後6時～

場所：脳研究所 1階 検討会議室

1) 7 テスラ MRI による蝸牛リンパ液振動の検出

(30分)

鈴木清隆

(新潟大・脳研・統合脳機能研究センター)

蝸牛の基底膜および周囲のリンパ液が刺激音の構成周波数に応じた進行波伝播パターンを生成することは良く知られている。しかし、ヒト蝸牛の内部動態に関する知見はすべて解剖体から得られたものであり、動物で観測されるものと同様の能動的機構が存在するとの直接的証拠は無い。我々は7テスラMRIを用いてヒト蝸牛内部のリンパ液振動を非侵襲的に検出する方法を開発し、能動特性を含めた蝸牛応答の可視化に道を開いたので報告する。

2) 大脳皮質特異的な発生プログラムの解明と恐怖行動異常を示す遺伝子改変マウスの発見について

(30分)

渡辺啓介¹, **周麗²**, **備前典久¹**, **夏目里恵²**, **阿部学²**, **崎村建司²**,

竹林浩秀¹ (¹新潟大・医・神経解剖; ²新潟大・脳研・細胞神経生物)

哺乳類で特に発達した脳領域である大脳皮質に特異的な発生プログラムはほとんど明らかになっていない。本研究会では、まず発生期大脳皮質に強く発現する Dpy19L1 による大脳皮質の発生制御について紹介する。さらに飼育者の手から餌を食べる、天敵臭に忌避反応をとらないなど恐怖行動異常を示す遺伝子改変マウスを新たに見出したので紹介したい。

3) 血栓溶解療法後の脳出血防止を目指したトランスレーショナルリサーチ

(30分)

下畑享良

金澤雅人, **川村邦雄**, **高橋哲哉**, **西澤正豊**

(新潟大・脳研・神経内科)

私どもは、脳梗塞に対する血栓溶解療法の合併症である脳出血を防止する治療戦略として、血管リモデリング因子を標的とした血管保護療法を検討し、知財獲得、および産学連携を進めてきた。本演題では、これまでの成果を紹介するとともに、アカデミア研究者が、基礎研究という「山」と、実用化という「山」の間にある大きな「死の谷（ギャップ）」を乗り越えるために必要なプロセスと課題を、経験を踏まえ議論したい。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：神経内科学分野)
新潟脳神経研究会幹事代表：西澤正豊